

わいふ一番館だより

問い合わせ先 わいふ一番館 ☎ 0968 (24) 6630

ありがとう花いっぱい的小学校「相良村立野原小学校最後の1年間の物語」 青山昌充

期 間 7月8日(火)～7月21日(月)

20年前、ダム工により廃校となった相良村立野原小学校の、花と情熱あふれた最後の一年の物語を展示します。

～ナチュラルアート～ パステル画作品展 マグノリア

期 間 7月23日(水)～8月3日(日)

優しい色合いのパステルで美しい季節を表現したり、心象風景を描いたりしています。どうぞご覧ください。

まちかど資料館・企画展示室

4校閉校物語り展「さようなら そして ありがとう！」

期 間 ～7月27日(日)

平成25年に迫水・龍門・水源・河原小学校の4校がそれぞれの思い出とともに永い歴史に幕を閉じました。4校の学舎を巣立った卒業生、そして温かく導いてくださった恩師や地域の人々に思い出の母校を回想していただけたらと思います。

※休館日：月曜日（祝日の場合は翌日）

菊池夢美術館情報

問い合わせ先 菊池夢美術館 ☎ 0968 (23) 1155

第6回竹細工展

期 間 7月1日(火)～7月31日(木)

午前9時～午後6時（最終日は午後4時まで）

熊本県伝統工芸館の竹サークルの会員が竹で作ったかご、手提げバッグ、日用品や置物など、自慢の手作り作品を展示・販売します。作者と語らいながら、日本人の技と美をお楽しみください。体験も丁寧に指導しますので、気軽にご参加ください。

体験教室 材料代500円

菊池温泉湧出60周年展

期 間 ～10月30日(木)



体験教室

開館時間 午前9時～午後6時

※期間中の閉館日はありません。



認定番号第ふるさとH24-29号
推薦者 掘切区



ダムの元地権者と伊坂区の皆さん



認定番号第ふるさとH24-28号
推薦者 伊坂区

明治時代に山越えで通行していた不便さを解消するために、地域の住民総出で何力月もかけて、鍬や唐鍬で掘った生活道。掘切住民の夢と汗の結晶です。人の手によるまさしく手作りの生活道路で、開通後は小中学校の通学路、農林業道路として利用され、今日に至ります。長さは100mを超え、幅は普通自動車を通れるほどです。鞠智城の南に位置し、掘切と鞠智城公園を結ぶトンネルでもあります。昭和6年に改修されたことが記されていますが、トンネルが掘られた正確な時期は不明です。

池ノ尾間歩（池ノ尾トンネル）

伊坂区 彼岸花の里

平成3年、当時建設中の竜門ダムに水没予定の班蛇口地区の協力を得て、2トトラック4台分、約10万個の球根を掘り上げて伊坂区内に移植し、現在に至ります。毎年9月になると、地区内一円に真っ赤なじゅうたんのように彼岸花が咲き誇ります。秋の彼岸には彼岸花祭りが開催され、ダムの元地権者や関係者などを招き、地域間の交流が行われています。

シリーズ菊池遺産

(49)

問い合わせ先 企画振興課
☎ 0968 (25) 7250

登録条件 高校生以上の個人またはグループ
※未成年者は保護者の同意が必要。登録後ボランティア保険に加入します。
登録方法 来館して登録してください。遠方の人は電話やメールなどでも登録できます。
登録後にご希望をお聞きして内容や日時を調整します。



国際ボランティア

ボランティアを募集しています

菊池市のグリーンツーリズムの拠点である「きくちふるさと水源交流館」では、グリーンツーリズムの活動や地域の力を生かした農業・自然体験の受け入れなどを行っています。

問い合わせ先
きくちふるさと水源交流館
☎ 0968 (27) 0102

ふるさと緑の便り
菊池グリーンツーリズム

人権・同和教育シリーズ

(106)

問い合わせ先 人権啓発課
☎ 0968 (25) 7209

平成25年度菊池市人権フェスティバル出品作品

【標語の部】

「誰か止めてよ、そのだれかは自分でしょ？」

七城中学校卒業
瀬田未来

「見ないふりそれが差別のきょうかいせん」

旭志中学校3年
轟大輝

「考えて言っていることわるいこと」

泗水西小学校卒業
坂本夢女

「だいじょうぶ？」

「えかけあってうれしいな」

旭志小学校2年
えがみすい

【ポスターの部】



泗水中学校卒業 林小春

【詩の部】

「ぼくのとちたち」

ぼくは、けんくんとかずくんがだいすき

けんくんとかずくんとならんでかえるかえりみち、ぼくが「きょうけんくんちにしゅうごうしゅう。」

という、けんくんとかずくんが「うん、わかった。」とこたえる。

ぼくは、うれしくなっはしてかえる。

戸崎小学校2年 うめだ まさと



韓国発見シリーズ

こんにちは金です

永遠の青年詩人 尹東柱

「死ぬ日まで空を仰ぎ／一点の恥辱なきことを／葉あいにもそよぐ風にも／わたしは心痛んだ。」

星をうたう心で／生きとし生けるものをいとおしまねば／そしてわたしに与えられた道を／歩みゆかねば／今宵も星が風に吹き晒される。」

これは、韓国の国民的詩人として有名な尹東柱の代表作「空と風と星と詩」の序詩である。尹東柱は日本が韓国を植民地にしていた時代の詩人である。彼は1917年に生まれ、1932年キリスト系の中学校に入学した後、平壤のプロテスタント系中学校に編入学するなどミッシェン系の学校を卒業する。日本留学も東京の立教大学である。彼は京都に憧れていたらしく、母方の従弟、宋夢奎が京大に合格したこともあり立教大学から京都の同志社大学に転学した。しかしそれが命取りになる。特高警察のブラック・リストに載っていた宋夢奎との接触や禁じられていたハンブルでの詩作が明らかに、治安維持法違反の

嫌疑で1943年7月に逮捕された。1944年2月、尹東柱と宋夢奎は起訴され、3月31日、京都地方裁判所で懲役2年の判決を言い渡される。その後、福岡刑務所に移送された。獄中では強制労働と毎日正体不明の注射を繰り返し打たれた。注射は朝鮮人青年囚人が50人ほど並んで打たれたという。彼はおそろく脳を病み、発狂したのではないかと思われる。1945年2月16日、27歳の若さで彼は獄死した。終戦のわずか半年前である。彼は繊細で傷つきやすい人だった。貝殻や山鳩や雀などの小さい命を愛した。彼の優しさを感じる「ひまわりの顔」と言う詩がある。「ねえさんのおは／ひまわりのお／陽がのぼるとすぐはたらきにゆく。／ひまわりのおは／ねえさんのお／うつむいてうちにもどる。」うら若い姉の体を吹き抜ける風や空気の感触さえ伝わってくる。心が震えてくるような詩を書いた詩人。その温かい心は国境や時代を超え、今なお感動を与える。

